

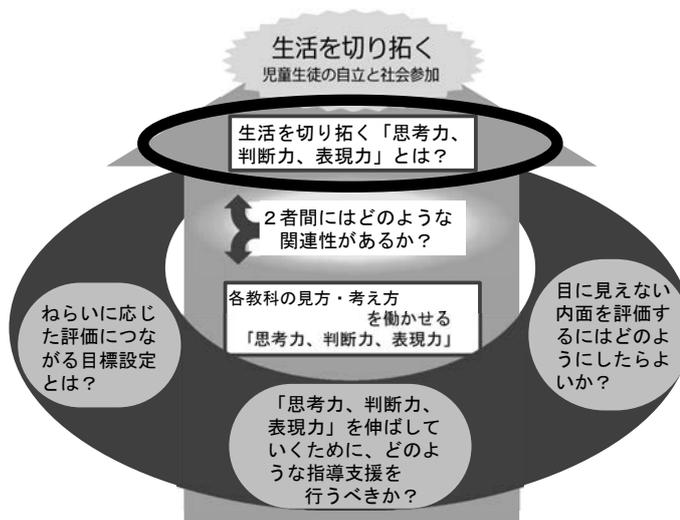
## 第2節

「思考力、判断力、表現力」  
を引き出す授業及び  
指導・支援の在り方の検討



# 1 教師の意識調査を基に、生活を切り拓く「思考力、判断力、表現力」の検討を行う。

研究内容（1）において整理された「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題を踏まえ、まず、生活を切り拓く「思考力、判断力、表現力」とはどのような力であるか検討をしていかなければならない。このことについては、当初は課題の整理を目的として実施した教師の意識調査における本校職員の回答が、まさに本校教師が考える「生活を切り拓く『思考力、判断力、表現力』」にあたるものとなった。そこで、この意識調査を基に生活を切り拓く「思考力、判断力、表現力」について検討を行うこととした。



教師の意識調査では調査項目として以下の3点を挙げた。

- ・児童生徒の普段の姿を見て、「思考力、判断力、表現力」の育成が不十分であると考えること
- ・今後伸ばしていきたい生活を切り拓く「思考力、判断力、表現力」
- ・「思考力、判断力、表現力」を伸ばしていくにあたって、有効な指導・支援

この調査における「不十分と考える『思考力、判断力、表現力』」「今後伸ばしていきたい『思考力、判断力、表現力』」は、特別支援学校学習指導要領の知的障害各教科で示された「思考力、判断力、表現力等」の目標・内容にとらわれず、生活を切り拓く力にもつながる児童生徒の現在及び将来の生活において必要となる総合的な力として挙げていくこととした。

各項目の回答は記述式とし、教師が各々回答した意識調査を持ち寄って、5～6名程度度のAからDの4グループを編成して話し合い、グループごとに検討した結果をまとめた回答を作成した。

「『思考力、判断力、表現力』を伸ばしていくにあたって、有効な指導・支援」は、直接的には、生活を切り拓く「思考力、判断力、表現力」ではないものの、研究内容（2）の研究手法エ「思考力、判断力、表現力」を育成する教師の指導・支援の在り方を検討する。の検討材料として活かすため、合わせて調査を実施することとした。

各グループで作成した意識調査の回答は以下の通りである（表7）。

〔表7 「思考力、判断力、表現力」の育成に関する意識調査グループ回答〕

<b>Aグループ</b>
<b>児童生徒の普段の姿を見て、「思考力、判断力、表現力」の育成が不十分であると考えること</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師からの働き掛けを待つ、指示待ちの児童生徒が多い。</li> <li>・ 自分から困った時に教師に支援を求めることが難しい。</li> <li>・ 気持ちや考えについて質問しても、応答することができない。</li> <li>・ 教師の指示の後に「分かりましたか」と確認すると、「はい」と答えるが、「分かったことを言ってください」の質問に答えることができない。</li> <li>・ 自分の行動や回答を振り返ることが少ない。</li> <li>・ やりっぱなしで間違っても修正することが少ない。</li> </ul>
<b>今後伸ばしていきたい「思考力、判断力、表現力」</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その時の状況に応じて、課題をクリアするために自分の行動を考える力。</li> <li>・ 優先順位を考えて行動する力や、今、すべきことに注意を向け続ける力。</li> <li>・ 分からないことや自分では難しいことを判断して、自分から質問したり、援助を求めたりする力。</li> <li>・ できれば相手に分かりやすい方法で、自分の意見を何らかの手段で表出する力。</li> <li>・ オープンクエスチョンに答える力。</li> <li>・ 自己満足せず、新たな課題を見付けて取り組もうとしたり、よりよく行動しようとしたりする力。</li> <li>・ 今後につながるように、体験や経験を積んで興味・関心を広げる力。</li> <li>・ ミスを恐れずに挑戦する力。</li> <li>・ 自分の意見と他の意見を比較し、よりよい方を選択する力。</li> </ul>
<b>「思考力、判断力、表現力」を伸ばしていくにあたって、有効な指導・支援</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が解決に向けて思考するような場면을教師が意図的に多数設定する。</li> <li>・ 児童生徒の好きなことを活動に取り入れたり、興味・関心を追求できるようにしたりする。</li> <li>・ 本人から支援依頼ができるように、困っている生徒の近くで見守り、依頼に応じることができるようにする。</li> <li>・ 興味のある活動場面を設定し、関わりや会話の中で思考するような質問をする。</li> <li>・ 学習して学んだ言葉や経験して触れた言葉を積極的に使うような場面設定をしたり促したりする。</li> <li>・ 児童のコミュニケーション手段に合った伝え方のモデルを教師が示したり、一緒に行ったりする。</li> <li>・ 自分の行動の結果として、喜んだり困ったりする人がいることを意識できるようにする。</li> <li>・ 自分で考えて解決に向かうことが難しい時に、手掛かりとなる選択肢を提示する。</li> <li>・ 様々な場面での対応の仕方を経験的に学ぶことができるように、ロールプレイ等を取り入れる。</li> <li>・ 「はい」「分かりました」と答えた時に、「何が分かったのか」まで確認できるようにする。</li> <li>・ 課題を解決できるか考える際に操作することができるような具体物を準備する。</li> </ul>

## Bグループ

### 児童生徒の普段の姿を見て、「思考力、判断力、表現力」の育成が不十分であると考えること

- ・自分で取り組むべきことを考えたり、決めたりする力が足りていない。また、教師側が事前に決めてしまっていることが多い。
- ・「予測」や「考察」等先のことを考えるということは少ない。
- ・困り感を言葉にして伝える力が弱い。困っていることは伝わるが、「何に困っていて、どんな支援が必要か」を教師が捉えることが難しい。
- ・非日常的な事案（災害等）やハプニング、場面変更等に対して、自分で困り感を表出したり、大人に連絡・報告したりして対応する力が弱く、混乱したり、指示待ちになったりする。

### 今後伸ばしていきたい「思考力、判断力、表現力」

- ・どうすれば解決できるか考える力。
- ・周りの人に関わっていかうとする力。
- ・自分で気づき、考え、行動する力。
- ・周囲の人に支援を求める力。
- ・自分なりの方法で、自分の困り感を周りに伝える等、その場面に合わせた表現力。
- ・状況を受け入れ、自分のことを周りに伝える力。
- ・分からない時に周りの人に相談し、それをヒントに考え、行動する力。
- ・場面変更、自然事象や事故等、いつもと異なる事象や出来事を受け入れ、対応する力。
- ・流れや周りの仲間の動きを捉えて、合わせようとする力。
- ・学習活動を振り返って次の学びへつなげる力。

### 「思考力、判断力、表現力」を伸ばしていくにあたって、有効な指導・支援

- ・ベースとなる考え方をパターン化して教える。
- ・思考の流れが定着するような指導を図る。
- ・児童生徒の表現の様子を丁寧に観察し把握する。
- ・児童生徒の問いにすぐに答えを出すのではなく、「どう思う？」等と問いかけて、一緒に考えるようにする。
- ・様々な経験を増やし、自分で判断する場面を設定する。
- ・段階的に場面変更を意図的に組み、変化に対応する経験を積めるようにする。
- ・困った時に伝えられるように、各児童生徒なりの伝え方を身に付けることができるように指導する。
- ・周りの状況を把握するための視点を伝える。
- ・双方向性のあるやりとりを指導する。
- ・豊かな言語環境作りをする。
- ・考えるべきことに集中できるように、提示する事柄や環境を整理する。

## Cグループ

### 児童生徒の普段の姿を見て、「思考力、判断力、表現力」の育成が不十分であると考えること

- ・質問や依頼を表出することはできるが、少し考えて「自分で何とかしよう」とか何度もチャレンジするとかの姿勢が少ない。
- ・指示待ちの場面が多い。
- ・試行錯誤する経験が少ない。
- ・児童生徒の「できた」という充足感が足りていないのではないか。
- ・生徒なりに考えている場面はあると思うが、教師側が捉えきれていないと感じる。

### 今後伸ばしていきたい「思考力、判断力、表現力」

- ・過去の経験（身につけたこと、学習したこと）を生かして、自分から行動を起こす力。
- ・自分なりに考えて決め、行動する力。
- ・得た情報から予測したり、想像したりする力。
- ・理由を説明する力。
- ・これをしたという欲求や、このようになりたいという願望に向かって、一心に努力していく力。
- ・主体的に「自分でやってみよう」と考え、取り組む力。
- ・周囲に相談し協力を得ながら、実現するために計画を立てる力。
- ・できることや分かったことを般化させたり、応用させたり創意工夫したりする力。
- ・既成の概念やルール、マナー等を知り理解した上で、新しい様式や考えを生み出す力。
- ・試行錯誤する力。
- ・間違いを恐れず、自分で判断しようとしたり、行動を起したりする力。
- ・伝えたいことを、もっている力で自ら発信する力。
- ・人が選んだことを認識したり、同様の意見等を意識したりする等、周囲の人に関心を向け、協力して働く力。

### 「思考力、判断力、表現力」を伸ばしていくにあたって、有効な指導・支援

- ・安心して表現できる（しようとする）雰囲気作りをする。
- ・小さな発信や表情の変化をしっかり観察し、児童生徒の思いを受け止める。
- ・児童生徒の考えや意見を尊重し、活動等に取り入れる。
- ・表に出ている「表現力」だけでなく、見えていない要因へのアプローチをする。
- ・様々なアイデアを考えたり、考えを途中で変えたりしてもよしとする。
- ・好きな物事について、好きな理由を伝えるよう促したり、表現できるように支援したりする。
- ・すぐに答えや方法を教えることで即解決するのではなく、「どうしたいの?」「どうしたらいいかな?」等、児童生徒の考えを引き出したり、ヒントとなる言葉をかけたりする。
- ・理由を引き出せるように待ちの時間をつくったり、心の中を見取って言葉をかけたりする。

## Dグループ

### 児童生徒の普段の姿を見て、「思考力、判断力、表現力」の育成が不十分であると考えること

- ・相談する力が足りていない。
- ・けがや病気等の時に自分の体の状況を伝えることが難しい。
- ・あきらめずに物ごとに取り組んだり、試行錯誤したりする姿が少ない。
- ・自分の「こうしたい」に向けて計画して、実行することが難しい。
- ・「これをしたらどうなるだろう」「これからどんなことが起こるだろう」等、ちょっと先を想像することが難しい。

### 今後伸ばしていきたい「思考力、判断力、表現力」

- ・足りていないと挙げた力が、そのまま今後伸ばしていきたい力である。
- ・自分の体や心の状態を、何らかの方法で伝える力。
- ・自己選択・自己決定し、その結果について受け入れて自己責任を果たす力。

### 「思考力、判断力、表現力」を伸ばしていくにあたって、有効な指導・支援

- ・成功体験を積ませる。
- ・選択肢を示す。語彙を増やしていく。「わからない」ことを明確にする。
- ・「わからない」ことを明確にする。
- ・教師の問いかけで思考をクリアにしていく。
- ・相談できる場と時間を確保する。
- ・「できた」に至るまでの過程を見取れるように。
- ・負荷のかけ方の匙加減（子どもの実態の正確な見取り）。

AからDグループの意識調査の回答結果を見ると、育成が不十分であると考える「思考力、判断力、表現力」と、今後伸ばしていきたい「思考力、判断力、表現力」は重なっている項目が多いことが分かった。「思考力、判断力、表現力」について、現時点では育成が不十分だと感じるため、これから伸ばしていきたいと考えており、それは視点を変えると、児童生徒の現在及び将来の生活において必要な力であり伸ばしていきたいからこそ、現時点では到達点には至っていないと教師が捉えていると考察される。

回答の中には「思考力、判断力、表現力」そのものではなく、「周囲の事物や人に関心を向けようとする力」「粘り強くチャレンジを続ける力」等、育成を支える土台にあたるのではないかと考えられるような回答もあった。「思考力、判断力、表現力」が幅広くイメージされているため、そのような混同が現れたと考えられる。しかし、これら「思考力、判断力、表現力」の育成を支える力についても、本校における「思考力、判断力、表現力」の育成に関する整理を行っていく上では、切り離すことのできない重要な視点であると考えた。

また、「『思考力、判断力、表現力』を伸ばしていくにあたって、有効な指導・支援」の質問については、現在行っている指導・支援の工夫点として挙げられるものもあったが、多くは、「思

考力、判断力、表現力」を伸ばして行くためには、もっと指導・支援を工夫して行っていくべきではないか、授業の在り方を考えて行かなければならないのではないかと、という課題意識をもって検討が深められた。

以上のことから、各グループから出された意識調査の結果を【伸ばしたい「思考力、判断力、表現力」】（表8）、【「思考力、判断力、表現力」を支える学びに向かう力】（表9）、【「思考力、判断力、表現力」を伸ばしていくための教師の支援の在り方】（表10）の3点でまとめることとした。

まとめた【伸ばしたい「思考力、判断力、表現力」】については、3つの項目に分類した。少し先の事象を想像したり、行動の結果を予測したりする力等は、「1 周囲の事象の捉えに関するもの」としてまとめた。優先順位をつける等条件に応じて計画する力、遂行途中でも状況に合わせて計画を変更したり、立て直したりする力等は、「2 課題解決に向けた計画に関するもの」としてまとめた。様々な方法でコミュニケーションをとる力、自分から相談する力等は、「3 コミュニケーションに関するもの」としてまとめた。

【「思考力、判断力、表現力」を支える学びに向かう力】については、「自主性・主体性」「人との関わり」「興味・関心」「チャレンジ精神」等がキーワードとして挙げられた。

〔表8 【伸ばしたい「思考力、判断力、表現力」】〕

1 周囲の事象 の捉えに 関するもの	周囲の物事や変化に気付く力
	周囲の状況を受け止め、対応しようとする力
	相手の伝えようとすることや言葉・文章や記号等が意味することを受け止め、対応しようとする力
	少し先の事象を想像したり、行動の結果を予測したりする力
	出来事や行動の理由や背景を説明する力
	事物の共通の特徴に気付いたり、特徴に基づいて分類したりする力
2 課題解決に 向けた計画 に関するもの	自分で課題を見つけて、取り組むべきことを考えたり決めたりする力
	もっている知識や技能を他の学習や場面でも使う力
	課題解決に向けて計画する力
	優先順位をつける等条件に応じて計画する力
	遂行途中でも状況に合わせて計画を変更したり、立て直したりする力
	試行錯誤しながら解決に取り組む力
	自分の活動や学習を振り返り、評価する力
3 コミュニケー ションに 関するもの	伝えたいことを発信する力
	様々な方法でコミュニケーションをとる力
	依頼の場面等で、困っていることや必要な支援について説明する力
	自分から相談する力
	自分の考えと他者の考えを見比べる力

〔表9 【「思考力、判断力、表現力」を支える学びに向かう力】〕

自分から行動を起こそうとする力
人任せではなく、自分で課題を解決しようとする力
周囲の人と関わり、他者と気持ちを通じ合わせようとする力
周囲の事物や人に関心を向けようとする力
自分の思いや考えを調節しながら友達と協力して解決に取り組む力
興味・関心を深めたり広げたりしようとする力
間違いや失敗を恐れずチャレンジする力
粘り強くチャレンジを続ける力
よりよいものにしよう、向上しようとする力
自分の選択や決定に対して、自分で責任をもとうとする力

教師の意識調査を基に検討した「生活を切り拓く力」につながる【伸ばしたい「思考力、判断力、表現力」】を課題の整理図の中に位置付けることを試みた。児童生徒にどのような力を育成していくかを示す矢印として、図11のように配置できると考えた。【「思考力、判断力、表現力」を支える学びに向かう力】は児童生徒の育ちの土台として図に含めて表すこととした。

この図は、「思考力、判断力、表現力」に着目して、児童生徒の育ちを表した図とも言え、空に向かって伸びていく様が樹木に例えられた。そこで背景に樹木のイラストを配置することとした。



〔図11 「思考力、判断力、表現力」に着目した児童生徒の育成したい資質・能力の整理図〕

【「思考力、判断力、表現力」を伸ばしていくための教師の支援の在り方】（表10）についても、3つの項目に分類して整理した。課題を自分で見付けたり選択したりする場面を設定すること、児童生徒が一人で任される場面を設定すること等の「活動内容や授業展開の工夫」に関するもの、思考や感情や様子等児童生徒が表現したいことが適切に伝わるような選択肢を準備することや、様々な手段による発信に適切に応じること等の「コミュニケーション支援」に関するもの、児童生徒の思いや考えを一緒に整理していくような会話ややりとりをしたり、様々な考えを尊重し、途中で意見が変わることも肯定的に捉えたりすること等の「教師の関わり方の姿勢」に関するものとしてまとめられた。

〔表10 【「思考力、判断力、表現力」を伸ばしていくための教師の支援の在り方】〕

教師の支援の在り方	
「活動内容や授業展開の工夫」に関するもの	心を動かす（発見や驚きや感動のある）様々な経験を積めるように支援する。
	好きなことを見付けたり、好きなことを追究して深めたりすることができるように支援する。
	必要な情報を自分で探したり、多くの情報から必要なものを選択したりできるように支援する。
	課題を自分で見付けたり選択したりする場面を設定する。
	「できた」「次はこうしよう」と肯定的に自分の学習を振り返ることができるように支援する。
	児童生徒の思いや発想が反映される授業作りをする。
	児童生徒が任される場面を設定する。
	児童生徒の興味・関心や強みが生かされるような授業作りをする。
	具体物を操作する等、作業とそのフィードバックを繰り返して考えを深めることができるように支援する。
	ロールプレイング等を取り入れ、実際の場面で生かされるように経験的な活動を仕組む。
	教室の中や学校の中だけでなく、地域で学ぶ機会を作る。
児童生徒がもう一歩努力したり、工夫したりすることで達成できるような課題を設定する。	
「コミュニケーション支援」に関するもの	自分以外の人の気持ちや、相手が伝えたいことに注意や関心を向けられるように支援する。
	児童生徒の思考や考えを適切に読み取る。
	思考や感情や様子等児童生徒が表現したいことが適切に伝わるような言葉の習得を図る。
	思考や感情や様子等児童生徒が表現したいことが適切に伝わるように、選択肢を準備する等の支援を行う。
	様々な手段による児童生徒の発信に適切に応じる。

「教師の関わり 方の姿勢」に関 するもの	オープンクエスチョン等、児童生徒が考えるような言葉かけや発問をする。
	答えではなく、考える方法を伝える。
	迷ったり悩んだりする時間を確保し、児童生徒に寄り添う姿勢で接する。
	児童生徒の思いや考えを一緒に整理していくような会話ややりとりをする。
	児童生徒の考えを尊重し、途中で意見が変わることも肯定的に捉える。

【「思考力、判断力、表現力」を伸ばしていくための教師の支援の在り方】は、研究方法Ⅱ「思考力、判断力、表現力」を育成する教師の指導・支援の在り方を検討する。において研究授業を組み立てる際の参考としていくこととした。また、具体的な手立てを講じていく際にも参考にできると考えた。

## 2 「思考力、判断力、表現力」の目標設定と学習評価の検討を行う。

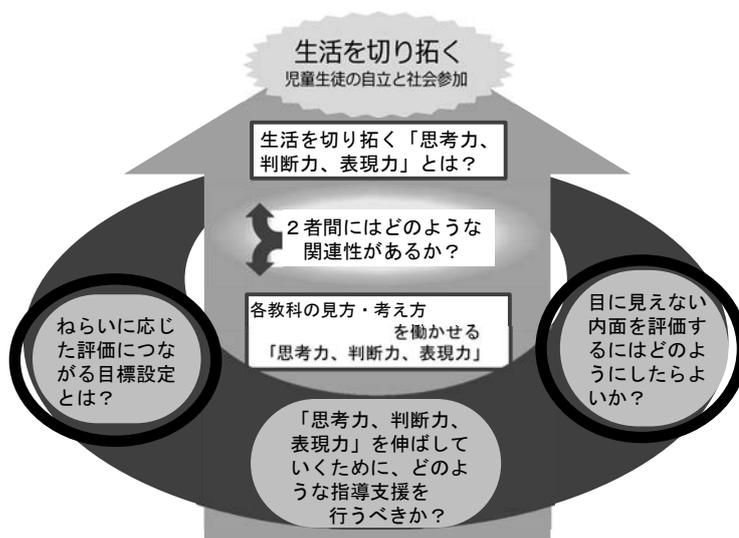
次に、研究内容(1)において整理された「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題のうち、「ねらいに応じた評価につながる目標設定とは？」

「目に見えない内面を評価するにはどのようにしたらよいか？」という課題に着目し、目標設定と学習評価について検討を行うこととした。

まず、教師の授業作りにおける思考の流れともなる指導案の様式について改訂を行った。これまでと大きく変

更した点は、育成を目指す資質・能力の3つの柱で単元の目標及び単元の個人目標の設定を行うようにした点と、単元の目標に準拠した3観点の評価規準を設けた点である。指導案の単元の目標は前述のとおり、これまでは教科ごとに育成を目指す資質・能力の3つの柱を踏まえて、中心的なものを1つ設定するようしていたところだが、今回、3つの柱に沿って3つの目標を設定することとした。これまでは、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」のどちらも重視しながらも、1文で表記しなければならなかったため、「〇〇の思いをもって演奏する」「〇〇について考えて発表する」等の複合的な目標設定が多く見られた。そのため、「思いをもつことができる」「考えることができる」ことをねらっているのか「演奏することができる」「発表することができる」ことをねらっているのかの混同が見られ、評価の段階で苦慮することが多かった。

また、これまでは目標自体を行動目標の形で示すことで、見取りの規準の意味合いをもたせていたため、「〇〇について考えて発表する」等実際の児童生徒の行動として見て取れるような表現の目標が多かったが、今回、児童生徒のどのような行動や様子をもって、その目標が達成されたとするのかの規準である「評価規準」を設定したことにより、目標としては学習指導要領の目標や内容にも示されているような「思いをもつことができる」「〇〇を工夫することができる」



等の表現ができると考えた。なお、目標自体が児童生徒の様子や行動として見取ることができるものである場合は、目標の「～できる」を「～している」と文末の変更をすることで、評価規準とすることとした。

単元の計画段階において3つの柱に沿った目標設定や、評価規準の設定をすることとなったことにより、教師の評価の仕方についても大きく変化すると考えられる。これまでは、単元終了後の評価をする段階において、3つの観点別に記述することとしていたため、単元が終わってしまってから児童生徒の活動の様子について記憶を遡って想起しなければならなかった。特に「思考・判断・表現」の評価を行うにあたっては、想起できた様子や行動がいったい児童生徒のどのような内面の表れであるかについて、改めて考察しなければならず、その困難さが、「『思考・判断・表現』の評価が難しい」ということにつながっていたと考えられる。様式の変更後は、目標を起点として事前に評価規準を設定することにより、児童生徒の内面の動きと行動との関係性を整理した上で学習の中での児童生徒の様子や行動を見ることができると考えられる。また、規準として想定しているような活動や行動が見られる時に、「なぜ〇〇したの?」「今、どんな気持ちかな?」等、リアルタイムで児童生徒に言葉かけし、双方向のやりとりを行うことにより、適宜、児童生徒が感じ取っていることや思考していることを確認しながら、評価を行うことができると考えた。

さらに、本指導案様式においては、個人目標は単元の目標がその児童生徒においてどの程度達成される状況を目指すのかといった視点で記入することとし、評価基準の意味をもたせることができると考える。現段階で達成できなかった場合は、△と評価を記入するが、今後どのような手立てを行っていけばいいのか、芽生えとしてはどのようなことができるようになったのか、という積極的な意味合いをもたせて記入することとした。